

第7回富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議 議事要旨

日時：令和元年11月18日（月）13:30～15:15

場所：富山市役所 801 会議室

出席委員：（順不同）

中村 和之	富山大学 副学長 （議長）
青木 一益	富山大学経済学部 教授
井上かおり	全日本空輸株式会社富山支店 支店長
上坂 博亨	富山国際大学現代社会学部 教授
酒井 富夫	富山大学研究推進機構極東地域研究センター 教授
品川祐一郎	富山商工会議所 副会頭
長尾 治明	富山国際大学現代社会学部 教授
野尻 昭一	社会福祉法人富山社会福祉協議会 会長
船橋 伸一	富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター 特命教授
不破 泰	信州大学総合情報センター 教授
松田 智生	株式会社三菱総合研究所 チーフプロデューサー
森永 達也	富山公共職業安定所 所長

出席オブザーバー

坂田 博昭 日本電気株式会社富山支店 支店長

要旨のポイント

- ・人口推計や市民アンケート結果の分析を行う際には、地域条件が異なることを考慮し、市中心部と農村部を分けて分析を行う必要があるのではないか。
- ・（資料3）目標人口34万5千人ということで、（これまでの実績を踏まえ）無理のない範囲での目標となっていると思うが、重要なのは人数より質ではないのか。
- ・（基本目標2の数値目標）「県内大学生の県内就職率」について、昨今の学生の状況を見ると、雇用流動化が進んでおり、（終身雇用ではなく転職等により）自由に仕事ができるという価値観を考慮して良いのではないか。
- ・今求められているのは、スマートシティやSociety5.0等を築いていける人材がいるかという点であり、人材の育成については、大学だけに求めるものではなく、地域で愛着を持って育成する必要がある。
- ・私は毎年2,000人から3,000人の東京の学生に講演を行っているが、これからは、できる限り富山の魅力をPRしていきたい。
- ・今回の会議での説明で、富山空港というキーワードが出なかったことが残念。1名の人口減少は、8名の観光客の増加で補えると考えられていることから、観光客を増やしていくことが重要となる。
- ・交流人口を増加させるため、県内市内の観光資源をPRしていただくとともに、商工産業観光（技術体験・就業体験）の支援を進めてほしい。

- ・大企業は東京オリンピックパラリンピックの際は、リモートワークを推奨し、会社に来なくて良いということになるだろう。東京（大手町・丸の内・有楽町）の通勤者は約28万人おり、その1割でも富山市に来ることになれば関係人口が創出できるといえる。
- ・説明のあった様々なアイデアや事業について、全部できればこれに越したことはないが、リソースには制限があることから、優先順位の考え方が分かればより議論が活性化するのではないか。
- ・高校生の県内定着率就職率は高いが、一旦県外に出ていった方が戻ってこないという点に問題がある。

議事内容：

1. 開会

2. 資料説明

「第1期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の検証結果について

富山市の人口動態及び人口推計について

富山市人口ビジョンの改訂骨子（案）について

○資料1-1・1-2にもとづき「第1期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の検証結果について」、資料2にもとづき「富山市の人口動態及び人口推計について」、資料3にもとづき「富山市人口ビジョンの改訂骨子（案）について」を事務局より説明した。

3. 意見交換

「第1期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の検証結果について

富山市の人口動態及び人口推計について

富山市人口ビジョンの改訂骨子（案）について

委員

- ・人口推計や市民アンケート結果の分析を行う際には、地域条件が異なることを考慮し、市中心部と農村部を分けて分析を行う必要があるのではないか。

事務局(企画管理部)

- 人口推計と市民アンケートの双方で地域別の区切りをつけて統計を行っている。平成30年に実施した富山市民意識調査においても地域別で統計を取った結果、市へ求める施策に地域差があることは認識している。人口推計については、現状、地域別の分析をし切れていないため、今後分析を進めていきたい。

議長

- ・富山市では、近年、社会増を維持しているものの、人口減少が続いていることから、長期的には自然減に対応したいという意識があるという中で、端的に表すことができる出生率という指標を用いているのだと思うが、そこに至るまでの取組が重要となるのではないかと。

事務局(企画管理部)

- ▶ ご指摘のとおり、長期的には自然増を意識していくことが必要であると考えているが、これを実現するため、第1期富山市まち・ひと・しごと総合戦略で位置付けた、総曲輪地区のレガートスクエアでの取組などの子育てのし易さに配慮した取組を今後も進めていくことが必要であると考えている。

委員

- ・(資料3) 目標人口34万5千人ということで、(これまでの実績を踏まえ)無理のない範囲での目標となっていると思うが、重要なのは人数より質ではないのか。数値だけで捉えているわけではないと思うが、目標人口を達成した場合、経済・製造・サービスがどうなるか示す必要があるのではないかと。

事務局(企画管理部)

- ▶ (今回示した)総人口での推計に加え、別途産業別での人口推計を行っているため、次回会議でお示ししたい。また、産業別の推計人口を踏まえ、次期総合戦略の策定に繋げていきたい。

○資料4-1・4-2・4-3にもとづき「第2期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の骨子(案)について」を事務局より説明した。

委員

- ・(資料4-2)基本目標4の基本的方向に「中山間地域等の地域生活拠点の形成」を位置付けているが、これは非常に重要な要素である。内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局では、(人口減少や高齢化が著しい中山間地域等において)地域運営組織を作ることで、小さな拠点の形成を推進している。第1期総合戦略では、「中山間地域等の地域生活拠点の形成」について、中山間地域等の交通空白地域解消と生活交通の維持を掲げ、目標も達成しているが、(次期戦略では)地域運営組織を作るような施策、KPI(重要業績評価指標)の設定が必要ではないかと。

事務局(企画管理部)

- ▶ 富山市では、79の地区センターを拠点に地域の生活を守るという方針を取っている。今後、その機能をどのようにしていくか等について次期総合戦略に盛り込むことができるか検討していきたい。

委員

- ・(資料 4-2) 基本目標 2 の数値目標に「県内大学生の県内就職率」を指標として位置付ける予定としており、これは従来の終身雇用という考えによるものと考えるが、昨今の学生の状況を見ると、雇用流動化が進んでおり、(終身雇用ではなく転職等により)自由に仕事ができるという価値観を考慮して良いのではないかと。
- ・定住、交流、関係人口の拡大を目指すという観点からも、県内における雇用の流動化を基本目標の数値目標として設定するのが良いのではないかと。

事務局(企画管理部)

- これまで検討してきていない視点であるため、今後調査・研究を進めていきたい。
- 一方、(第1期総合戦略の効果検証において、毎年度進捗を把握できる目標を設定する必要があるという課題が明らかとなったことから)実際に雇用の流動化に関する数値目標を設定した場合、適切な指標があるか等の課題もあると考えられる。

委員

- ・各自治体が人口目標を達成するためには、県内大学生がどれだけ地元就職するのか、また結婚した際にどこで家を作るか(居住していくのか)が重要となるが、その前提として、地域に産業が必要であり、産業を作るには人材がなくてはならない。
- ・今求められているのは、スマートシティや Society5.0 等を築いていける人材がいるかという点であり、人材の育成については、大学だけに求めるものではなく、地域で愛着を持って育成する必要がある。例えば、地域課題解決に向けて、小学校の時から ICT(情報通信技術)を活用することが重要であり、そこで学んだ小学生(高校生や大学生に進学した後に)が次の小学生に教える等することで、正のスパイラルを達成することができる。
- ・教育に関わることであるため、最低でも10年は続けていく必要があると考えている。LPWA 網(富山市のほぼ全域をカバーする省電力広域エリア通信網)を既に作っている富山市のポテンシャルは凄く、それを今後の人材育成に活かしていくことが重要である。

オブザーバー

- ・現在、ビックデータを解析できる人間が圧倒的に不足していることから、人材の育成が増々重要となってくる。富山市で集めている様々なデータをこれからどう活用できるか今後協力していければと考えている。

委員

- ・シティプロモーションが重要であると考えている。(富山市路面電車も)南北接続により、交通が便利となることから、観光客を岩瀬の町や環水公園に呼び込むことが必要である。また、富山にはインバウンドで重要となる空港があるため、海外からの観光客を呼び込む入り口となるのではないかと。
- ・私は毎年2,000人から3,000人の東京の学生に講演を行っているが、これからは、できる限り富山の魅力をPRしていきたい。

委員

- ・今回の会議での説明で、富山空港というキーワードが出なかったことが残念。1名の人口減少は、8名の観光客の増加で補えると考えられていることから、観光客を増やしていくことが重要となる。
- ・(アンケート調査の結果) 希望出生率 1.88 とのことだが、アンケートで子供が産まれてくるわけではない。首都圏に転出した女性をもう一度富山で働かせなくてはならない。
- ・富山に来て、スマートシティをこんなにも進めていることに驚いた。花をかざろう(フラワーハンキングバスケット)、とほ活(歩くライフスタイルの推進)等、非常に都会的で地方都市であって東京のような機能を持っている。富山の魅力を発信していくこと、今の事業を途切れることなく続けていくことが重要となる。
- ・(資料2) 市民アンケートの結果を見ると、若者の就職について給料が高い・希望の職種がある地域(首都圏)が高くなっているが、実際の東京と富山の賃金の差、賃料の差がどれだけ違うのか等(富山の住みやすさを)周知していくことが必要ではないか。

事務局(企画管理部)

- 本市の調査(高校卒業後にそのまま市内で就職した場合と、高校卒業後に県外等の大学へ進学してから就職した場合等における進学や就職に要する経費も含めた生涯賃金の差をはじめ、通勤時間や子育て環境といった暮らしやすさの違いなどに関する調査)で、首都圏と収支差を比較したところ、富山の方が高いという結果が得られた(首都圏は収入が大きいと支出も大きい)。このことについては高校生に対してもアピールしていきたいと考えている。
- 首都圏から戻ってこないという点についても、色々な機会を捉えPRしていきたい。

委員

- ・基本目標の数値目標に県内大学生の県内就職率を位置付けるとのことだが、今は人材不足であるため県内就職UIJターンを含め推進してほしい。
- ・交流人口を増加させるため、県内市内の観光資源をPRしていただくとともに、商工産業観光(技術体験・就業体験)の支援を進めてほしい。
- ・マルチハビテーションの推進に関し、資料4-3のシティラボの施策があると思うが、詳細を教えてください。

事務局(企画管理部)

- シティラボは現在検討中である。具体的には、次回の総合戦略会議で説明したい。
- マルチハビテーションの推進については、これまでも富山県外に住所のある個人について、富山市のまちなかで住宅を新築又は購入した場合に補助するとう事業を行っている。

委員

- ・新しい人の流れをつくるという点で、これまでの戦略会議で話をしてきたように、逆参勤交代(首都圏で働くビジネスマンが期間限定で地方においてリモートワークするもの)の考え方が重要となる。

- ・大企業は東京オリンピックパラリンピックの際は、リモートワークを推奨し、会社に来なくて良いということになるだろう。東京（大手町・丸の内・有楽町）の通勤者は約28万人おり、その1割でも富山市に来ることとなれば関係人口が創出できるといえる。

事務局(企画管理部)

- 先ほど説明した、シティラボ構想は、これを視野に入れたものである。

委員

- ・説明のあった様々なアイデアや事業について、全部できればこれに越したことはないが、リソースには制限があることから、優先順位の考え方が分かればより議論が活性化するのではないかと。
- ・多くの地方都市では、地方分権により競わされ疲弊している。基礎自治体は相互依存となっている実態もあり、地方創生もいつまで続くか分からない中、観光やインバウンド等、ウィンウィンの関係を築いていくことも重要である。

議長

- ・(委員の発言を受けて) 広域連携を築いていくことも重要な視点である。その点、富山市では人口目標について社会増ではなく、自然増に力を入れていくということを考えているのだと思う。

事務局(企画管理部)

- 全てが行政でできる時代ではなくなっていることから、民間・市民とどう分担していくか、周辺市町村とどう連携していくか、行政だけがやらなくてはならないことは何か見極める必要がある。

委員

- ・高校生の県内定着率就職率は高いが、一旦県外に出ていった方が戻ってこないという点に問題がある。就職セミナーについて、就職を希望する高校生だけに行うのではなく、進学を希望する学生についても(将来富山市に戻ってきてもらうことに繋げるため) 行う必要があると考えている。

委員

- ・福祉分野は特に人材が不足し、今後高齢者人口も増える中、人材の確保が重要となる。

(以 上)